



目 次

研究情報

センリョウの安定生産をめざして・・・・・・・・・・ (古屋挙幸) ・ 1

研究の成果

促成栽培におけるシネンシス系デルフィニウムの品種特性・・・・・・・・ (宮前治加) ・ 2

バラ切り花の湿式輸送におけるバケット内溶液・・・・・・・・ (伊藤吉成) ・ 3

キジョウロウホトトギスは日長処理により開花調節が可能・・・・・・・・ (村上豪完) ・ 4



収穫を迎えたセンリョウ



センリョウの栽培施設

研究情報

センリョウの安定生産をめざして

センリョウ (センリョウ科センリョウ属) は、緑の葉っぱの上に鮮やかで真っ赤な小粒の実を付け、お正月の花材として重宝されています。日本では、年平均気温15℃を北限とした関東地方南部から西南の暖地に分布し、主に常緑樹林の下に自生する低木の陰生植物です。

本県におけるセンリョウの栽培は、昭和24年に印南町真妻へ導入されたのが始まりとされています。そして、需要が高まった昭和40年頃から栽培面積が増加し、現在、日高地方の中山間地域を中心に32.3ha (平成16年地域

農業改良普及センター調べ) 栽培されています。

しかし、気象条件の影響を強く受けるため、収穫期までに果実が落ちる「実落ち」が発生し、作柄は不安定となっています。また、実生繁殖が行われているため、形質のバラツキも見られます。

そこで、暖地園芸センターでは、実付き良好な優良系統の選抜を産地の協力を得ながら進めるとともに、その普及を促進するための均一苗の効率的増殖法の開発に取り組んでいます。 (育種部 古屋挙幸)